

…Cool! しりべし…

新

型コロナウイルスの感染拡大は、私たちの仕事や生活を大きく変えました。明確なトレンドはデジタル化です。デジタル技術を使った変革を意味する「デジタルトランスフォーメーション(DX)」という言葉は連日、マスメディアに登場しています。

多くの人が在宅勤務、オンライン授業、テレビ会議などを経験し、移動時間が短縮される効果を実感しました。オンライン授業は小樽商大でも実施されています。対面授業ならではの臨場感には欠けませんが、講義動画を何度も見返せるので、学生の自由度や主体性を向上させ、学習効果を高めた面もあります。

留学しなければ受けられなかった海外協定大学の授業を、低コストで受講することもできます。コロナ禍で帰国した留学生たちは、オンライン講義を活用し、遠隔で学業を続けているようです。

王 力勇



コロナがデジタル化進めた

研

研究者にもプラスがありました。たった2時間の講演を聴くため東京や大阪と往復するのは難しかったのですが、最近では在宅のまま参加できます。世界中の学会や講演会がオンラインで開催されるようになり、私の場合、この半年間で20回以上のセミナーに参加しました。コロナ禍以前は考えられなかったことです。

コロナ禍が未曾有の厄災であることに疑いようはありません。しかし、何事にも二面性があります。少なくとも社会のデジタル化を大きく推進させたことは、認めざるを得ないでしょう。この機会を捉え、自らを積極的に変化させる姿勢も必要です。

(オウ・リョクコウ 小樽商大准教授 中国遼寧省出身)

◇翻訳・北海道新聞Hot Media 構成・北海道新聞小樽報道部。原文は多言語サイト (<https://hzw.hokkaido-np.co.jp>) QRコードで読めます。



駅前再整備 4案軸に

小樽市検討委 11月までに素案

JR小樽駅前広場の再整備案を話し合う市の検討委員会（委員長・大津晶小樽商大教授）の第3回会合が19日、市民会館で開かれた。タクシールや一般車、バスと歩行者の動線が一部で重なる現状を改善することや、にぎわいの創出が主な目的。市が昨年12月に示した5案のうち、車両用のロータリーを新たに複数整備し、安全性を高める4案を軸に検討を進めることを決めた。

（鈴木孝典）

検討委は学識経験者や地権者ら約20人で構成。昨年

8月から議論を進めてき

市が示した5案は、にぎわい創出のためイベント会



駅前広場の再整備に向けて検討が進むJR小樽駅

JR小樽駅前広場再整備 4案のポイント

A案	面積1万平方㍍。「バス」と「タクシー・一般車」の各ロータリーを設置。バスは第1ビル側、タクシーと一般車は余市側に入出口
B案	面積7850平方㍍。「バス」と「タクシー・一般車」の各ロータリーを設置。車両の入出口は駅前交差点がメイン
C案	面積7850平方㍍。「バス」と「タクシー・一般車」の各ロータリーを設置。バスは駅前交差点など、タクシーと一般車は余市側に入出口
D案	面積7400平方㍍。バスターミナルを第1ビル内に整備。広場に「タクシー」と「一般車」の各ロータリーを設置。タクシーと一般車は駅前交差点などに入出口

場などに利用できるオープンスペースを駅舎出入り口周辺に設けることは共通しており、バスとタクシー・一般車のロータリーや動線をどう整備するかで違いを付けた。

この日の会合では、バスとタクシーのロータリーを一体に整備し、一般車の乗降場を広場の外につくる案を「駅から遠くなり市民ニーズと合わない」とし、検討対象から外した。

残る4案は広場の面積が1万7400平方㍍で、現在は駅前広場にあるバスターミナルを広場に隣接する小樽駅前第1ビル内に移すか否かや、公道への出入り口をどこに配置するかが今後の主な論点となる。

市は検討委の意見を踏まえ、11月までに1案に絞った上で素案を作成する予定。パブリックコメントを経て、来年2月の整備基本計画策定を目指す。着工や完成の時期は未定という。

新北のうた^{ごよみ}暦

2021. 2. 20

炎屋のながき石坂 面伏せて往くたれかまた
多喜二をつがなむ 菅野美知子

1960年代の小樽での作。太陽の光が照りつける真昼、長い石坂を顔を伏せながら往くのは、小林多喜二の母校、現在の小樽商科大の学生だろうか。あるいは、人の死を悼む人々の列。それとも、言葉少なく進むデモの人々かもしれない。志半ばでいたましい死を迎えた多喜二の思いを、継いでほしいという願いが迫る。今日は多喜二忌。 田中綾